

しなやかな強さを持った 若者たち



教育随想

岡崎市民病院

院長 小林 靖 氏

私は二十年ほど前に岡崎市民病院に部長として赴任し、多くの新人医師を受け入れ、指導してきました。さらに昨年、院長に就任してからは、毎年四月に病院全体で百人以上の新人医療スタッフを受け入れ、オリエンテーションなどをしております。そのような経験を通して、今の若い世代の気質が自分たちの世代とは大きく変わったと実感しております。

最近の若者を表す表現として、「Z世代」という言葉がよく聞かれます。「世代」とは、ある時代に生まれた人々を各々の特性（多くは育った社会情勢を反映している）からグループ分けしたものです。「Z世代」は、欧米の世代分類で、一九九〇年代半ばから二〇一〇年序盤生まれの年齢層の若者を指します。

私が市民病院で受け入れている新

人医療スタッフの多くは、この「Z世代」に当たります。私から見ると、「Z世代」は個人の意見をしっかりともちながらも周囲に配慮し、ルールに則った行動を行うなどの特徴がある一方、メンタルが繊細で、挑戦や競争は好まない傾向もあります。また、「仕事」と「プライベート」、「利己」と「利他」といったように物事を対立的に捉えがちな私たち上の世代とは違い、「Z世代」は全体を俯瞰し調和させようとします。ワークライフバランスを重視し、さらに『自分だけじゃなくて、周りも良くしたい』と利己と利他のバランスを取ります。このように「Z世代」には、自らも目をそむけなくなるところを含めて、自分の心と素直に向き合い、ありのままの自分を周囲や社会と共有する、そんなしなやかな強さ



令和5年12月1日

12月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
岡崎市民病院
院長 小林 靖 氏
- この人に聞く…………… 2
くろやなぎ てっぺい 氏
- 羅針盤…………… 2
恵田小学校
校長 内山彩由実
- ふれあい…………… 3
六ツ美南部小学校
教諭 大久保信樹
- 特集…………… 4
児童育成センター
—放課後の子供たちの居場所として—
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー…………… 8
土曜講座(平成7年)
- この本を…………… 8



を感じます。
このようなしなやかな強さをもった若者たちが、当院や当地域のみならず、わが国や世界の明日をもきつと調和の取れた良いものにしていくと信じています。
(こばやし やすし)



既存の枠にとらわれない

くろやなぎ てっぺい氏

私たちの生活にあふれる映像コンテンツ。これらの映像を作り出す現場では、映像ディレクターがチーム全体を導いて制作活動を進めている。コマースやミュージックビデオ、ドラマのオープニング映像などの多方面での活動が評価され「映像作家百人」にも選ばれた、くろやなぎ氏からお話を伺った。

「映像の道に進もうと思ったきっかけを教えてください」

高校卒業後、将来のことが決まらずに始めた、道路のライン引きのアルバイトがきっかけです。土木作業員の方が何もない道路に書いた「止まれ」という文字の美しさに強く魅了されました。そして、デザインについて学びたいと思い、名古屋の専門学校に入りました。文字のデザインを学ぶ中で、今度はその文字や画像を動かしてみたいと思い始めました。こうして、文字やイラスト、写真などに動きを加え、イメージに合わ

せた音を加える手法に出会い、虜になつていきました。専門学校卒業後も名古屋で映像の勉強を続け、二十六歳の頃、身につけた力を発揮してミュージックビデオを作りたいという思いから、上京することにしました。

「仕事を続けていく中で、どんな悩みがありましたか」

上京して間もなく、有名アーティストのミュージックビデオを作るという大きなチャンスを得た。その後も機会に恵まれ、多くの作品に関わることができました。東京で働く日々は季節を感じることができないくらい忙しかったです。三年が経ったころ、自分にしかできないこととは何かを悩み、考えるようになりました。「既存の枠にとらわれない」という自分の生き方へのポリシーもあり、次のステージに進みたいという思いが強くなりました。三十歳になる頃、これまで続けていた映像の仕事すべてを辞めて北米に留学し、自分自身を見つめ直す時間になりました。帰国後も、自分のやりたいことは何か、手探りのまま過ごしました。振り返ると、あの時期に自分自身を見つめ直した時間は、その後の私の基礎となっています。

「自身に大きな影響を与えた出来事はありますか」

平成二十三年、三月十一日。東日本大震災が起きたことです。復興支援のために、何かできないかを模索する中で、無力さを感じていました。そんなある日、東京の仲間たちが映像を通じた社会貢献の活動を始める

と聞きました。その仲間の活動からヒントをもらい、これまで培ってきた映像と音楽の力を使ってできることがあるのではないかと考え始めました。それは、「へいわをねがう」の七文字を頭文字にし、あいうえお作文にして歌う姿を撮影することでした。老若男女を問わず、多くの人が歌い上げる姿を撮影し、インターネット上で発信しました。撮影を続けていく中で様々な境遇の人が自分のメッセージを一生懸命に歌う瞬間に立ち会えることに幸せを感じ、映像を作ることへの意欲がよみがえってきました。あの時の感動が、今の私の原動力になっているのだと思います。

「今後について教えてください」

自分自身、既存の枠にとらわれずに職を転々とする中で、感性が磨かれてきたのだと思います。私は名刺に自分の肩書きを書いていません。肩書きを書いたら、自分の中でできることの範囲を狭くしてしまうからです。

今は長野県で地方再生のための活動をしています。後々は、生まれ育った岡崎でも、私自身のこれまでの力やこれから培う力が役に立てば、そんな幸せなことはありません。これからも、私の作品と出会った人が新しい視点を得られる、そんな作品を作っていきたいと思っています。



氏名 くろやなぎ てっぺい
生年月日 昭和五十四年四月二十七日
岡崎小―南中



「心のふるさと」となる学校づくり

恵田小学校
校長 内山 彩由実

毎年卒業を控えた六年生と会食をする。その時に必ず一人一人に夢を語ってもらう。

「多くの将来の夢は、この恵田地区で農業をすることです。農業にぜひ挑戦してみたいんです。」

夢を語るA児の言葉は続く。

「何かを育てることは、厳しく苦労も多くあることを知りました。しかし、汗をかき、考え、体や知恵を使つたからこそ実りを迎えた喜びは、もう格別でした。たくさんの方を教えてもらった経験は絶対に忘れません。あきらめません。」

その姿はまさに、本校が教育指針として掲げる「豊かな心を持ち、たくましく生きる恵田っ子」の姿そのものだった。

どの学校にも、それぞれのもつ強みやその学校でしか実現できない特

共に学ぶ楽しさを実感させたい

六ツ美南部小学校

教諭 大久保 信樹



母親と一緒に、Aさんは特別支援学級の教室へ入って来た。Aさんは、母親の陰に隠れて不安いっぱい表情でこちらを見ていた。私が声をかけても、母親の顔を見るばかりで、会話をすることができなかった。Aさんは、二年生から転級してきた児童である。一年時は、通常学級での集団生活になかなか馴染めず、欠席や遅刻・早退の日々が続いた。本人に合った学校生活を送らせたいという保護者の願いからの転級であった。

Aさんは、二年生になっても遅刻や早退をする毎日であった。私は、早くAさんのことが知りたくて、登校すると「今日は元気かな」帰るときには、「今日、学校楽しかったかな。何が楽しかったかな」と声をかけ続けた。次第に、「今日は、三時間目までやって帰りたいや」ぬり絵が楽しかった」等の言葉が返ってくるようになった。Aさんは、読書やぬり絵、工作をすることが好きだと分かった。同時に、学級

の他の児童との交流がなかなかうまくいっていないようであった。他の児童が話しかけても、やりとりはほんの短い時間で終わってしまう。Aさんはすぐに一人でぬり絵をすることが常であった。私は、Aさんが他児童と関り合うことよさに気づけば、学校生活ももっと楽しく、充実していくのではないかと常々考えていた。

ある休み時間、教室で読書しているAさんに近づき、「何を読んでいるの」と尋ねると「スイミー」と力強く答えた。「おもしろいの」と続けて尋ねると、「うん、だってね、B先生（一年時担任）と勉強したから」と答えた。B先生のことが大好きだったAさんは、「スイミー」に興味を示していた。私が、「じゃあ、国語の時間にもう一度スイミーを勉強しようよ」と提案すると「本当に」と目を丸くして驚いた。「Aさんだけじゃなく、菜の花一組みんなでやるよ」と伝えると「いいよ」と嬉しそうにAさんは答えた。授業では、上学年の児童が下学年を手助けしながら音読したり、難しい言葉や文章の意味の説明をしたりすることを中心に行った。Aさんも上学年の児童と一緒に読むようになり、少しずつ内容を理解しているようだった。「スイミー」の授業をするようになって、Aさんは、学校で長く過ごすことができるようになった。「今日は何が楽しかったかな」と帰りに聞くと、「スイミー」と笑顔で答えるようになっていた。「スイミー」の授業も後半になった。その日は、登場人物の気持ちを考える

授業を行った。特別支援学級の児童の中には他人の気持ちを想像することが苦手な子も多い。Aさんもそうであった。役割演技を取り入れて場面ごとに考えるようにした。しかし、「今、スイミーはどう思ったのかな」と聞いてもAさんは、うつむいて「分からない」と答えるばかりであった。そこで、私はAさんに本物のスイミーを感じられるよう、黒いビニル袋を衣装にみたくて着せてみることにした。すると、Aさんの目が輝き、隠れている仲間の魚たちに向けて力強く「早く出てこいよ」と気持ちをを入れてせりふを言った。「今どんな気持ち」と聞くと「早く、みんなを助けたい」と自分の思いを答えた。

この授業をきっかけに、Aさんは、みんなで学習する楽しさを、日々感じているようである。これからも、Aさんの成長に合わせて、菜の花一組のみんなと少しずつ前進する姿を楽しみに、寄り添って指導していきたい。



色がある。突然の感染症拡大や社会の変化の波の中でも、多くの教職員や保護者・地域の方々は、目の前の子供たちのことを第一に考えて伝統を受け継ぎ、今に至る。ここでしか学べない「人・もの・こと」が財産として積み重なり、母校を誇りに想う心が子供たちに熟成される。

現代の子供たちは、タブレットやパソコンを活用すれば様々な情報を瞬時に得ることが出来る。しかし、そこでは肌で感じた経験を得ることはできない。だからこそ自分の学校で目指すことを精選し、地域の力を最大限に活用した学校づくりに努めていくことが大切である。小さな苗に願いを込めながら植える時の、手に感じる田んぼの感触。ほんの数時間だけ開いてしほむ、稲の花のはかなさ。地域の方に学びながら丹精込めて育てた作物が一夜にして荒らされる悔しさ、自然との共存の難しさ。体と心で学んだことは、必ず子供たちの未来につながり、ふるさとを想う心を育みながら夢や誇りを与えてくれる一助となると信じていたい。

予測困難な新たな時代を生きっていく子供たち。ふと立ち止まり自分を振り返ったとき、ふるさとからずっととエールを送り続ける学校があることを忘れないでほしい。

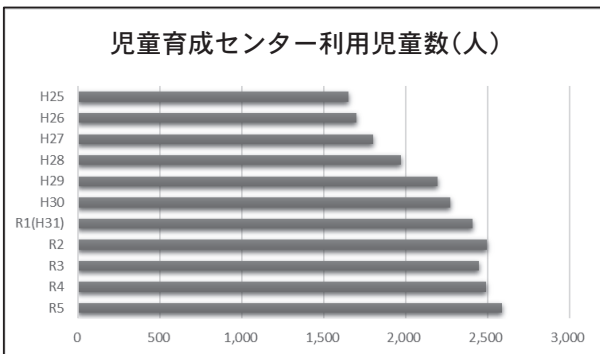
児童育成センター —放課後の子供たちの居場所として—



▲児童育成センターに帰って来る子供たちと、出迎える職員

岡崎市児童育成センター開所年度		
年度	児童育成センター名	
1999年	平成11年	上地 大門
2000年	平成12年	梅園 六ツ美北部
2001年	平成13年	北野 城南 亀美丘 緑丘
2002年	平成14年	井田 矢作南
2003年	平成15年	六ツ美南部
2004年	平成16年	六名 六ツ美西部 本宿
2005年	平成17年	男川 三島 細川 矢作北 ★豊富
2006年	平成18年	小豆坂 矢作西
2007年	平成19年	岩津 羽根 ★連尺
2008年	平成20年	岡崎 美合 六ツ美中部 藤川 第2井田 ★第2大門
2009年	平成21年	第2六名
2010年	平成22年	山中 ☆広幡 第2上地
⋮	⋮	⋮
2016年	平成28年	☆大樹寺 第2矢作南 第2六ツ美西部 第3井田
2017年	平成29年	第2岡崎 第2亀美丘 第2梅園
2018年	平成30年	★常磐 第2六ツ美北部 第2北野 第2細川
2019年	平成31年	第2男川 第3六名 第4六名
2020年	令和 2年	
2021年	令和 3年	(☆大樹寺※拡張) ☆第2城南
2022年	令和 4年	☆第2六ツ美南部 (☆第3岡崎※長期休暇のみ)
2023年	令和 5年	☆第2緑丘

★は小学校敷地内に建設 ☆は小学校校舎内に整備



(出展：岡崎市こども育成課)

「おかえりなさい」「ただいま」職員の温かい出迎えに、子供たちは笑顔で答える。ここは児童育成センター。子供たちの第二の家である。「これ私たちの手作りなんですよ」と職員の方が見せてくださった脳トレゲームや、「自分たちで作ったんだ」と子供たちが紹介してくれた釣りゲーム。既成のおもちゃや本の中には、学区の方から寄付されたものもある。地域の方が講師となつて行う卓球教室、金銭教室、交通教室。児童育成センターには、そこで過ごす子供たちを支えているたくさんの愛がある。

現在、センターの出入り口にはタブレット端末が設置されている。QRコードで子供の登所退所を管理するもので、令和二年度から始まった。民間企業のノウハウを取り入れたことは職員の人員確保にもつながり、今まで以上に安定した育成支援が可能になった。また、今年度から長期休業中の弁当注文サービスも開始した。子供を預ける保護者の安心や負担軽減につながる取組が進められている。

岡崎市の児童育成センターは、一九九九年に上地と大門学区に開所したのが始まりである。以来、その数は年々増えている。現在では三二学区に計五一の児童育成センターがあり、利用児童数は市内で約二六〇〇人にのぼる。今年度は緑丘小学校の校舎内に「第二緑丘児童育成センター」が誕生した。また小豆坂学区内の市営住宅敷地内に開所した施設は、公募により民間の児童クラブが運営をして

子供の居場所として大きな役割を担っている児童育成センター。そこに関わる多くの人に支えられ、今日も子供たちは元気に帰って来る。

保護者の安心・負担軽減のために



▲弁当注文サービスのおかず一例



▲登所・退所を管理するタブレット端末

センターのタイプ

こどもの家隣接タイプ



▲市内で最初にできた児童育成センター(上地)

校舎内・学校敷地内タイプ



▲教室を活用(広幡)



▲長期休業中のみ図工室を活用(第3岡崎)



▲校舎増築に伴い校舎内に新設(第2緑丘)

市営住宅敷地内タイプ



▲市営住宅敷地内に開所した放課後児童クラブ(小豆坂)

楽しく過ごせる 児童育成センター



▲地域の方が教える卓球教室(豊富)
※同じ施設内にある子どもの家



▲職員手作りの脳トレゲームで遊ぶ



▲自分たちで作ったおもちゃで遊ぶ



▲落ち着いて取り組んでいる学習時間の様子

今後の開所予定(民間運営)
令和6年4月:緑丘学区 令和8年4月:大門学区



●教育最新情報

◆令和5年度全国学力・学習状況調査における岡崎市立小中学校児童生徒の結果について

1 調査分析概要(全国の平均正答率と比較して)

下記の通りです。

2 岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

- (1) 国語・算数・数学・英語における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を詳細に把握します。
- (2) (1)の分析結果を受け、その授業改善案等を教育委員会が各学校へ伝え、必要に応じて担当指導主事等が学校訪問を行い、改善状況を確認したり、指導したりします。
- (3) 各学校で行っている「教育診断アンケート(学校評価)」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、取り組むよう指示します。
- (4) 子供たちの生活習慣や学習環境が学力に影響を及ぼすことを、家庭や地域に周知した上で、家庭や地域と連携しながら改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めるよう、各学校に対し指示します。

令和5年度全国学力・学習状況調査 岡崎市の分析結果

〈小学校6年生〉

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	できている ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の意図と比較しながら、自分の考えをまとめる力がたいへん優れている。 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解する力が優れている。 ・日常よく使われる敬語を理解する力が優れている。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力がやや弱い。 ・学年別配当漢字表に示されている漢字を、文の中で正しく使う力が弱い。
算数	できている ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する力がたいへん優れている。 ・示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する力がたいへん優れている。 ・加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする力が優れている。 ・正三角形の意味や性質について理解する力がやや弱い。 ・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて説明する力が弱い。
学習状況	・「学校に行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている児童の方が正答率が高い。 ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている児童の方が正答率が高い。 ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる児童の方が、正答率が高い。 ・「朝食を毎日食べる」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」など、規則正しい生活を送る児童の方が、正答率が高い。 ・「自分には、よいところがある」「先生はよいところを認めてくれている」など、自己肯定感が高く、承認欲求が満たされている児童の方が正答率が高い。
生活状況	・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる児童の割合は、全国平均を上回っている。 ・地域の行事、活動に参加している児童の割合は、全国平均を上回っている。 ・家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は、全国平均を下回っている。

〈中学校3年生〉

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	よくできている ・視点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える力がたいへん優れている。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む力がたいへん優れている。 ・文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する力がたいへん優れている。 ・目的や場面に応じて質問する内容を検討する力がやや弱い。
数学	たいへんよくできている ・条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る力がたいへん優れている。 ・反比例の意味をたいへんよく理解している。 ・複数のデータ分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力がたいへん優れている。 ・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する力がやや弱い。
英語	たいへんよくできている ・情報を正確に聞き取ったり、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ったりする力がたいへん優れている。 ・文と文の関係を正確に読み取ったり、社会的な話題について、短い文章の要点を捉えたりする力がたいへん優れている。 ・未来表現の肯定文や、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書く力がたいへん優れている。 ・日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を伝える力がたいへん優れている。 ・疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用する力が弱い。
学習状況	・「朝食を毎日食べる」生徒は、そうではない生徒に比べ正答率が高い。 ・「自分には、よいところがある」「先生はよいところを認めてくれている」など、自己肯定感が高く、承認欲求が満たされている生徒の方が、正答率が高い。 ・1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器が多く使われていたと感じている生徒の割合は、全国平均を大幅に上回っている。
生活状況	・「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒の割合は、全国平均を上回っている。 ・「学校に行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている生徒の方が正答率が高い。 ・地域の行事、活動に参加している生徒の割合は、全国平均を上回っている。 ・家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合は、全国平均を下回っている。

●表彰

◆第90回NHK全国学校音楽コンクール全国コンクール

○小学校の部 合唱

銅賞 六名小

◆第29回日本管楽合奏コンテスト全国大会

○中学生B部門

優秀賞 翔南中

◆第12回日本学校合奏コンクール2023全国大会ソロ&アンサンブルコンテスト予選審査

○アンサンブル部門

中学校の部

予選通過(全国大会進出)

城北中

◆JOCジュニアオリンピックカップ第54回U16陸上競技大会

○1000m

3位(全国大会進出)

翔南中 権田 颯志

◆第5回愛知県中学生新人陸上競技大会

○2年男子100m

2位 東海中 小島 昊大

○男子1500m

3位 芥美北中 太田 至

○女子1500m

1位 芥美北中 市川 紗帆

○男子3000m

1位 北中 秋田 順哉

◆第30回愛知県中学校カヌー大会新人戦

○男女総合

3位 新香山中

○男子カナディアン一人乗り

3位 新香山中 八木 琉成

○男子カナディアン二人乗り

2位 新香山中

○女子カヤック二人乗り

磯部 和生・伊藤 志映

3位 新香山中

加藤 愛梨・沖林 綾瞳

○女子カヤック四人乗り

2位 新香山中

加藤 愛梨・沖林 綾瞳 早川 紗奈・針生 紗希

◆第37回東海マーチングコンテスト

○パレードコンテスト部門

銀賞 南中

◆第35回東海小学生バドミントン大会

○個人戦(5年生以下男子シングルス)

優勝 竜谷小 服部 恵大

◆第71回統計グラフ全国コンクール

○第2部(小学校3、4年生)

佳作 三島小 中西 真優

○パソコン統計グラフの部

入選 竜美丘小 古田 六花

◆第67回愛知県統計グラフコンクール

○第1部(小学校1、2年生)

金賞 井田小 成瀬 絢音

○制御部門

優勝 福岡中 仲 智也

◆愛知県中学生創造ものづくり教育フェア「創造アイデアロボットコンテスト」

○制御部門

優勝 福岡中 仲 智也

準優勝 福岡中 宮田 良哉

銀賞 三島小 秋葉 奏志

銅賞 井田小 横手美紗稀

○第2部(小学校3、4年生)

金賞 三島小 坂本 圭

三島小 山東 葵

上地小 森 優貴

銀賞 三島小 河合 幸恵

三島小 野村 春斗

銅賞 竜美丘小 山崎 糸麻

三島小 生地 文夏

三島小 石川 愛琉

○第3部(小学校5、6年生)

金賞 三島小 野村 奈央

三島小 判治 里紗

銀賞 三島小 太田 幸希

三島小 丸山 明莉

小豆坂小 横井 楓花

銅賞 三島小 横井 凜花

三島小 山口 礼遥

竜美丘小 勝野 愛可

○パソコン統計グラフの部

金賞 竜美丘小 古田 六花

新香山中 石川 創樹

◆愛知県中学生創造ものづくり教育フェア「創造アイデアロボットコンテスト」

○制御部門

優勝 福岡中 仲 智也

準優勝 福岡中 宮田 良哉

福岡中 伊藤 卓真

3位 福岡中 梅村 明煌

福岡中 津田 直樹

◆フラワー・ブラボー・コンクール

○学校花壇コンクール

愛知県大賞 形埜小

奨励賞 梅園小

○学校花壇設計図コンクール

愛知県教育委員会賞

形埜小

○私たちの学校花壇を描いた写生コンクール

愛知県知事賞

形埜小 倉橋沙友里

愛知県教育委員会賞

形埜小 倉橋 汐里

中日新聞社賞

形埜小 稲葉 万結

○花と私の作文コンクール

愛知県知事賞

形埜小 石原 小晴

愛知県教育委員会賞

形埜小 岡本 桜音

中日新聞社賞

形埜小 小川 湊翔

◆愛知県防火作品展

○小学校5年ボスターの部

愛知県消防協会賞

広幡小 尾本 彩鷹



教職員の相談窓口

【対象】 全教職員 【相談内容】 ・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

北
中
勝
田
紗
江

土曜講座 (平成7年)

写真提供：額田中学校

地域の方を講師として招き、わらざうりづくりを体験している。普段の授業では体験できない活動であり、生徒は、講師の技に見入っている。

学校週五日制に先立ち、第二、四土曜日が休日となった。土曜日が授業日の際は、地域人材を講師とした「土曜講座」が行われた。平成十四年度から始まる、総合的な学習の時間を見越した取組である。「環境」「生き方」「福祉」のテーマから選び、自ら課題を見つけ学び考える時間となった。

地域から学ぶ機会を多くすることは、豊かな心を広げ、地域を愛し、地域のことをさらに考える、ふるさと教育につながっていく。



保護者から児童育成センターについての質問が多く、関心の高さが感じられる。保護者や地域の要望に応じて、岡崎市こども育成課は、新しい施設を開所して、受け入れ人数を増やしてきた。

市や地域の方々の支えで、保護者が安心して仕事に従事し、子供たちが元気に過ごせる環境が常に保たれている。

「友達と関わることで、学習する楽しさを感じる事ができた。」一人の子供に寄り添い、そっと手を差し延べ、導くことで、成長の機会を見逃さない。さらに、「チーム」による学習が、子供の心理的安全性を担保する。こうした授業の在り方をさらに進化させていきたい。

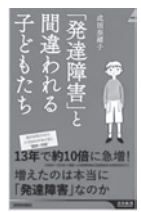
とホ

師走



▲クリスマスリース作り (小豆坂小)

伝える方法は様々である。くろやなぎてっぺい氏は、誰もが楽しめるように、思いに音楽をつけ、さらに、音楽と呼応する映像をつけた。すると、相手への伝わり方が何倍にも高まったそうだ。既存の枠にとらわれずに磨かれてきた、くろやなぎ氏の感性が、新しいものを生み出すための原動力になっている。



*「発達障害」と間違われる子どもたち
成田奈緒子
青春出版社 ￥1,050

心に残った一文
睡眠不足が「発達障害もどき」を引き起こす。

「発達障害もどき」とは、著者が作った言葉である。発達障害と疑われる子供の中で、睡眠・生活改善によって様子が変わっていく子供がいる。それは、脳の発達に関係し、子供、親、そして教員も適切な睡眠をとることが大きなカギであるとしている。専門的立場から具体的に丁寧にその理由が書かれており、発達障害に対する捉え方を見直す機会を与えてくれる。そして、生活改善のポイントは「…」である。本書は、子供たちに「早寝 早起き 朝ごはん」を推奨している私の背中を押してくれた。

- *メリットの法則 行動分析学・実践編 奥田 健次
集英社新書 ￥880
 - *自分を受け入れるスヌービー いろいろある世界を肯定する禅の言葉
チャールズ・M・シュルツ 訳：谷川俊太郎 監修：柊野俊明
光文社 ￥1,400
 - *その本は 又吉 直樹 ヨシタケシンスケ
ポプラ社 ￥1,500
- 藤川小 塚谷 保